



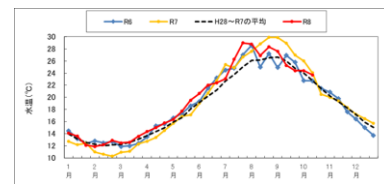
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽

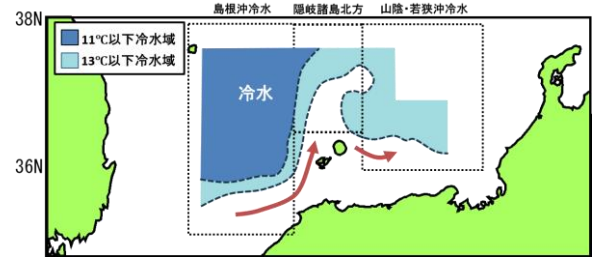
(電話:0858-34-3321)

10月中旬 23.7℃

平年より 0.9℃高め



10月上旬の水塊配置と対馬暖流



鳥根沖冷水域	13℃以下の冷水域は、N35°30'以北に認められ、平年(直近10年)と比べ、やや接岸傾向でした。
隠岐諸島北方の冷水域	13℃以下の冷水域は、N36°30'以北に認められ、一部は隠岐諸島と同緯度まで南下していました。
山陰・若狭沖冷水域	13℃以下の冷水域は、N36°10'以北に認められ、平年と比べ、やや接岸傾向でした。
対馬暖流の流路	主流の一部は、鳥根沖冷水域に沿った流れ、鳥根半島から隠岐諸島にかけては北東に向かい流れると考えられます。 山陰・若狭沖冷水域は平年よりやや接岸傾向であるため、流路と岸の距離は平年より接岸していると考えられます。

水産振興課・漁業調整課

11月6日に今漁期のズワイガニ漁が解禁します。

日本海のズワイガニ漁業における今漁期の漁獲可能量(TAC)は、今後のズワイガニ資源の安定的な利用を図るため、前漁期より少ない数量が設定されました。これに伴い、本県の沖合底びき網漁業へのTACの配分量も減少しましたが、前漁期並みの漁獲であれば漁期終盤まで安定的な漁獲を続けられる数値は確保しています。

日本海A海域全体の漁獲可能量(TAC)及び、本県への配分量と消化率

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
日本海A海域全体(富山県～鳥根県)	3,700	3,700	3,000
うち鳥取県配分	1,038t(51.4%)	1,038t(58.8%)	754t(※)

※前漁期の本県漁獲量は610トン。今期が前漁期並みの漁獲量になった場合、消化率は8割程度に達する可能性あり。

TAC減少により資源管理がさらに重要となります。漁業者は、国の漁獲規制に加え、より厳しい自主規制(漁獲量制限、保護区設定等)により、徹底した資源管理を行っています。今漁期からは、若松葉に及び、ももがに(爪が小さく甲羅の固い最終脱皮前のオス)の自主規制が強化されます。世界最高峰とも言われる資源管理で、将来に向けカニ資源とカニ食文化を継承していく取組に御支援ください。

鳥取県の沖合底びき網漁業における令和8年漁期のズワイガニ自主規制内容

項目	自主規制の内容
松葉がに(オス)	甲幅10.5cm未満は水揚げしない
親がに(メス)	日帰り船(出港から帰港まで24時間以内) 3,500枚 1晩泊り船(出港から帰港まで48時間以内) 6,000枚 1航海船(出港から帰港まで48時間以上) 12,000枚
若松葉がに(脱皮後間もないオス)	日帰り船 300枚 1晩泊り船 300枚(前年400枚) 1航海船 400枚(前年500枚)
ももがに(爪が小さく甲羅の固い最終脱皮前のオス)	1航海ごと 700枚(今期から規制開始)

栽培漁業センター

試験船「おしどり」から沿岸の潮流情報を発信します！

刺網漁やイカ釣り等、漁業を行う際の出漁判断や漁場選択において、潮流は重要な指標です。そのため、試験船「おしどり」にも潮流計を設置し、現在運用中の「潮流情報自動提供システム」で情報を発信します。

- 現在、潮流計を設置している漁船は夜間に操業することが多く、出漁前に確認できる周辺の潮流情報が不足していました。そこで、10月以降、試験船「おしどり」にも潮流計を設置し、潮流情報を補うことにしました。「おしどり」が調査時に取得した潮流データは、順次「潮流情報自動提供システム」に反映しています。
- 令和9年度、県の試験船2隻の出航時に、その軌跡上の潮流情報をリアルタイムで公開できるよう、システムの改良を進める予定です。



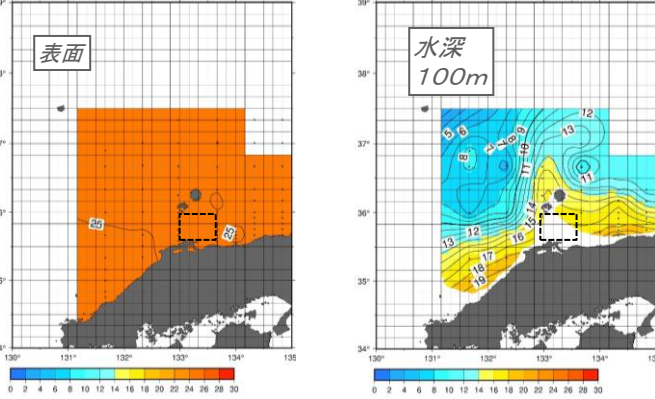
おしどりに設置した潮流計



図 漁船からの潮流情報としてのメニュー画面と潮流情報

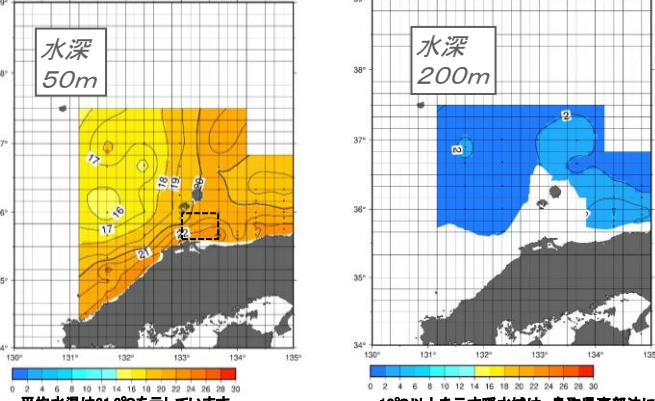
観測日時	上層(5m)	中層(15m)	下層(25m)
2025/10/01	07:00	0.1	
2025/10/01	06:30		
2025/10/01	06:00		

観測日時	上層(5m)	中層(15m)	下層(25m)
2025/10/01	07:00	0.2	0.2
2025/10/01	06:30		
2025/10/01	06:00		



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は24.8℃を示しています。
【前年差: -2.40℃、平年(直近30年)差: +0.42℃】

平均水温は16.5℃を示しています。
【前年差: +0.37℃、平年(直近30年)差: +0.73℃】



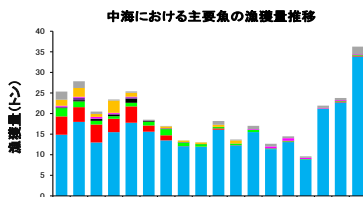
平均水温は21.3℃を示しています。
【前年差: -0.15℃、平年(直近30年)差: +0.03℃】

10℃以上を示す暖水域は、鳥取県東部沖には確認されませんでした。

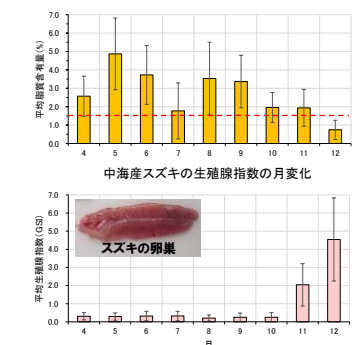
水産試験場

脂がのる時期を調べています！～中海産スズキのPRに向けて～

- ・ 昨年の10月にもご紹介した中海産スズキの続報です！
- ・ 中海では、スズキが漁獲量の9割以上を占めており、重要魚種の一つとなっています。
- ・ そのスズキが増加傾向にあり、昨年(R7年)は33トンを超え、集計のあるH20年以降で最も多くなりました。
- ・ 当場では、中海産スズキのPRに向けて、スズキの漁獲実態や脂がのる時期を調べており、これまで、夏から初秋にかけて脂がのることや、特に5月が最も脂のりが良いことが分かって来ました。
- ・ 今年度は、これまでデータの無かった4月や7月などのサンプルを集めて分析し、数値を確認したり、年が変わっても傾向が変わらないかなどの検証をしています。



中海産スズキの脂質含有量の月変化



中海産スズキの生殖腺指数の月変化



・ その結果、漁師さんのお話のとおり、4～11月を通じて脂のりが1.5以上あり、春～秋は比較的高いことが分かりました。

・ 一方、成熟度(生殖腺指数:生殖腺の体重に占める割合)の変化では、11～12月に高く、産卵期に相当すると考えられました。このことは、脂質含有量が低下する時期と概ね一致しており、スズキがエネルギーを産卵に用いるため、脂質含有量が低下するものと考えられます。

今後、調査結果を活用して漁師さんとともに、中海産スズキをPRして行きたいと思えますので、ご期待ください！



令和8年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136

電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330



共和水産株式会社
代表取締役 橋津 寛正

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX:0859-42-6330